

esplanade

FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館

esplanade [エスplanade]
JANUARY 2026 | NO.222

1966.4
HIROSHI NAKAMURA



水平線上を走る蒸気機関車、こちらへと続く道を駆けてくる少女。空には赤い雲がうごめくように広がっています。画面中央の大きな円形の中には、蒸気機関車と少女の顔が拡大され、望遠鏡から見える世界を肉眼で見える世界に組み込んでいます。左下の小さい円には望遠鏡を覗いているのであろう何者かの目が描かれています。赤色で表現されたモチーフが見る者の気持ちさをざわつかせるようでもあります。不穏な空気に満ち

た情景が広がります。本作に描かれる蒸気機関車や女学生は、中村宏の1960年代の作品にたびたび登場します。少年の時に初めて目にして衝撃を受けた蒸気機関車だけでなく、セーラー服の女学生というモチーフには、「修学旅行」を作品のテーマとして据えるなかで出会いました。また、中村は立石紘一とともに宣言した「観光芸術」において、「みた」ものを『みる』ということについて考えています。「観光芸

術」とは、観光客が見た風景がその人の記憶の中の風景となり、その記憶の風景を再び視覚化して絵画として表したものを意味します。中村は、本作以後、「みる」との複雑さを追求し、多様で実験的な作品を制作するようになります。見る者に「みる」ことについて考えさせ、目が離せなくなる作品です。

※近現代美術室Cにて6月末まで展示しています。

花田珠可子
(近現代美術係)

所蔵品紹介

オペラガラス3

中村宏・NAKAMURA Hiroshi(1932-)
1966年
油彩・画布
80.4×116.4cm

esplanade

[エスプラナード]

JANUARY 2026 | NO.222

contents

- 03 所蔵品紹介
- 04 あなたには、この謎が解けるか!?
古代エジプト三千年の謎に迫る
- 06 インドネシア染織の、ステキの理由
- 08 「ある」と「ない」のあいだ
一浦川大志が描く風景のかたち
- 10 美術館スケジュール(1～3月)

2025年11月6日、当館コレクション展の総観覧者が400万人に達しました。これまで足をお運びくださった多くのみなさまに、心より感謝申し上げます。

1979年11月3日の開館以来、当館では、重要文化財を含む茶道具、仏教美術のほか、九州出身の近代洋画家、さらには、バスキア、ウォーホルなど20世紀を代表する作家の作品、そして現代美術作品に至るまで、16,000点を越える多彩なコレクションを収集・保存してきました。また今年からは、より鑑賞を楽しんでいただけるよう、一部のコレクション作品に、音声ガイドも導入しました。今後も、みなさまの作品との出会いや美術館で過ごすひとときが、より豊かに心に残るものとなるよう努めてまいります。

第1章 古代エジプト人の謎を解け!

文明の予兆／書記になれ！／
大いなるナイルの恵み／古代エジプト人の暮らし／
美しさと善良さ／出産と子育て

ピラミッドやファラオに関する遺物が物語る古代エジプトの歴史。
その陰にあって見過ごされてきた、名もなき人々の「日常生活」に
注目します。最も人気のあった職業「書記」の仕事ぶり、ナイル川を
崇め畏れた人々の衣食住の様子について、彫像、レリーフ、種々の
工芸品によってたどります。



① 《貴族の男性のレリーフ》／紀元前1292～前1075年頃
ブルックリン博物館蔵／Photo: Brooklyn Museum
② 《ニカーラーとその家族の像》／紀元前2455～前2350年頃
ブルックリン博物館蔵／Photo: Brooklyn Museum



1895年にニューヨークのブルックリン地区に開館したブルックリン博物館は、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、オセアニアなど世界各地の美術を収蔵・展示し、米国でも有数の歴史と規模を誇るミュージアムとして知られます。なかでも古代エジプト部門は有名で、国家成立（紀元前3100年頃）以前の先王朝時代から3千年以上の時代にわたる膨大な古代エジプト美術のコレクションを誇ります。

本展はそれらの中から選ばれた約140件の作品で構成するもので、エジプト考古学者・河江肖剌氏（名古屋大学デジタル人文社会科学 研究推進センター教授）の監修により、古代エジプト文明が秘める様々な謎に迫ります。とくに本展が着目するのは、ナイル川流域において高度な文明を育んだ人々の営為です。絶対的な存在として君臨した権力者・ファラオ（王）の実像は？その支配下で暮らした人々はどうな日常生活を送っていたのか―どんなものを食べ、どんな言語を話し、どんな仕事をし、何を書き残したのか？ピラミッドはなぜ、どのようにして造られたのか？死者の再生を信じて行つたミイラ作りの実態とは？展示構成は全3章にて、彫刻、



第2章 ファラオの実像を解明せよ!

ピラミッドとは？／神のフト〈館〉／ファラオの象徴／
1500柱の神々／太陽信仰と宗教改革／ファラオの「仕事」

3千年の王朝史を通じて活躍した12人のファラオや高官、そして神々の像を多数展観し、ファラオの実像や、一般庶民を含めた神々への信仰を見つめます。《王の頭部》（写真）は現存最古級のエジプト王像の一部で、一説に、ギザの大ピラミッドを建造させたクフ王を表わしたものともいわれています。

《王の頭部》／紀元前2650～前2600年頃／ブルックリン博物館蔵／Photo: Brooklyn Museum



ブルックリン博物館

棺、宝飾品、土器、パピルス、人間やネコのミイラなどを展観しエジプト学における最新の研究成果もふまえて解き明かしてゆきます。

福岡市美術館で古代エジプト美術の特別展が開催されるのは、実に13年ぶりとなります。現在好評開催中で、会期は3月8日（日）まで。この貴重な機会をお見逃しなく！

学芸課長 後藤 恒

第3章 死後の世界の門をたたけ!

神聖な動物たち／多彩な副葬品／
オシリス崇拝／ミイラ作り

古代エジプト人は、死後も現世と同様の生活が続くと信じ、遺体をミイラにし、必要とされる品々を墓に納めました。猫をはじめとする動物も、神への供物としてミイラ化されました。それらの遺物を多数展示するとともに、現存最古の葬送文書『ピラミッド・テキスト』（紀元前2400年頃～前2200年）に記された呪文の一部を音声で再現したコーナーも設けています。



① 《ネコの棺とミイラ》／紀元前664～前332年
ブルックリン博物館蔵／Photo: Brooklyn Museum
② 《神官ホル（ホルス）のカルトナーージュとミイラ》（部分）
紀元前760～前558年頃／ブルックリン博物館蔵
Photo: Brooklyn Museum
③ 《ビーズの襟飾り》／紀元前1390～前1352年頃
ブルックリン博物館蔵／Photo: Brooklyn Museum

展覧会情報

ブルックリン博物館所蔵

【特別展】 古代エジプト ―掘り起こせ、三千年の謎―

会期：開催中～3月8日（日）

会場：2階 特別展示室

観覧料：一般2,000円（1,800円）、高大生1,500円（1,300円）、小中生1,000円（800円）

※（ ）内は前売り、20名以上の団体料金

主催：ブルックリン博物館、特別展 古代エジプト 福岡実行委員会（福岡市美術館、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、FBS福岡放送、東映）

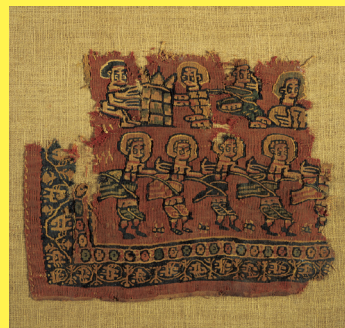
あわせてご覧ください

コレクション展 古美術
古代エジプトの染織 ―コプト裂―

会期：1月20日（火）～3月22日（日）

会場：1階 松永記念館室

「コプト」とは、エジプトにおけるキリスト教徒のこと。エジプトにおいて初期キリスト教時代が始まる3世紀頃より制作された織物の断片をコプト裂といいます。本展は松永コレクションに含まれるコプト裂を多数紹介します。特別展とあわせてお楽しみください。



《コプト裂 赤地人物文織織製》エジプト 6～9世紀
福岡市美術館（松永コレクション）

あなたには、この謎が解けるか!?

古代エジプト三千年の謎に迫る

いつの時代も私たちを魅了してやまない、古代エジプト美術が、最新の知見とともに当館へやってきました。

インドネシア染織の、ステキの理由

多くの島々からなるインドネシアは、染織の宝庫と呼ばれるほどバリエーション豊かな染織品で知られています。本展では、一杉秀樹氏が長年にわたって収集し、当館へご寄贈いただいたインドネシアの染織品85点をごらんいただきます。

話を聞いた人

館長 岩永悦子

編集部 一杉コレクションの特徴を教えてください。

岩永 インドネシアは多くの島々からなる国家で、一杉コレクションはその西端のスマトラ島から、東に向かって、ジャワ島、バリ島、ロンボク島、フロレス島、レンバタ（ロンブレン）島、アロール島、ティモール島、そしてスラウェシ島の9つの島の染織品から成り立っています。

本コレクションの染織品は、素材は、大きく分けて木綿と絹。種類は、防染模様染（バティック）、緋、紋織、絞り、印金など。おおむね19世紀から20世紀にかけての間に作られたものです。一杉氏が特に興味を持たれたのがスマトラ島の緋と、地域ごとに多様な文様があるジャワ島のバティックです。二つの島の染織だけでコレクションの半数を超えています。特にジャワ島のバティックは、さまざまな地域のもので、時代の変化を追うことができるようにセレクトされています。

バティックにフォーカスして言えば、いえ、フォーカスしてもその多彩さに驚かされます。ヒンドゥー教の影響をうけた文様やコーランの聖句を描いたもの、西洋からの影響を受けた文様、あるいは中国風の文様もあり、インドネシアの文化の多様性を見て取れます。ひとつの布のなかにも複数の文化の痕跡が見られる場合があり、それを読み解くのも鑑賞の楽しみのひとつです。コレクションのなかでも最も謎めいているのが、幾何学生物文様更紗儀礼用布です。手紡ぎ手織りの木綿布に藍染が施されていますが、ゆるキャラを思わせる不思議な生物（？）が描かれています。似たものがほとんどなく、他と比べてかなり古いものである可能性があります。一方、その対極のようなものとして、のスメン文様更紗腰布があります。空間恐怖症とでもいふべき緻密さですべての部分が文様で埋め尽くされています。超絶技巧的な技術力はバティックの魅力のひとつとして誰もが認めるところです。

編集部 なぜインドネシアの染織は、こんなに多様なのでしょうか？

岩永 インドネシアでは、染織品は儀式で重要な位置を占めています。インドからもたらされた更紗や緯経緋のパトラといった染織品が、家宝として代々受け継がれてきました。熱帯に位置するにも関わらず、500年以上前の染織品が現存しているんです。

1万7500以上におよぶ島々は、外との交流も盛んでした。それぞれの島で、インドの染織品の文様を取り入れた織物や染物が生み出されています。同じ文様をベースに、それぞれの島で異なった表現になっているので、比べてみると非常に興味深いです。

編集部 どんなところが魅力だと思いますか？

岩永 それぞれの島で、まったく異なった染織品が生み出されているので、魅力を二言でいうのは難しいですね。大半を占める

編集部 実際に使われてきたものだからその魅力がありそうですね。

岩永 今回展示するものは、儀礼の空間に飾られたものや儀式の際に身につけられたもの、あるいは、日常のなかで人々が身につけたものを中心です。それらは独自の造形感覚を示しながらも、多くの人に訴えかける普遍的な魅力、美を有しており、美術館でそれを堪能していただきたいと思っています。



スメン文様更紗腰布（部分）



幾何学生物文様更紗儀礼用布（部分）

馬蹄文様更紗腰衣

ヨーロッパ風のデザインがバティックに取り入れられたのは、19世紀の半ば以降とされていますが、大きな花束が繰り返される文様を考案して人気を博したのが、このバティックの作者であるエリザ・シャルロッテ・ファン・ザウレン（1863-1947）でした。



【展覧会情報】

一杉コレクション展

—魅惑のインドネシア染織—

◇会期：開催中～3月15日（日）
◇会場：1階 古美術企画展示室

期間中展示替えあり

鋸歯文様緯経肩掛

スマトラ島の南東にあるパンカ島は、緯糸を染め分けて文様を表す緯経の産地であり、細やかで正確な括りの技術や、深い赤色などの鮮やかな染色で知られています。高い技術で整然とした幾何学文様が表されています。

※展示期間：12/17～1/25



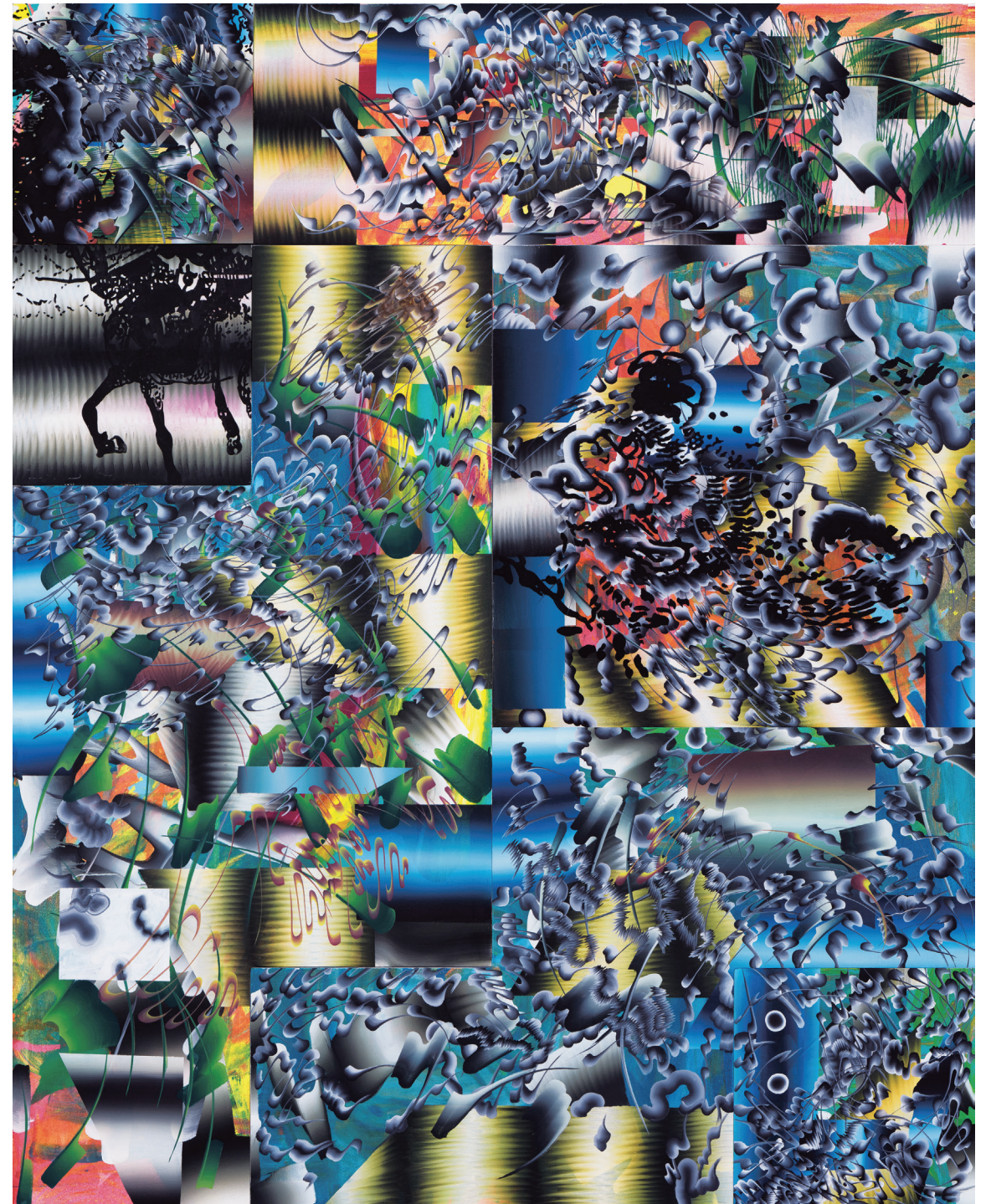
人物幾何学文様経緯緋 経糸緯糸紋織肩掛

バリ島東部のテンガナン村では、グリーンシンと呼ばれる経糸と緯糸をそれぞれに染め分けて、文様を表現する経緯緋の布が知られています。染めと織りの双方の卓越した技術により、しゃがむ人物が正確にあらわされています。



「ある」と「ない」のあいだ —浦川大志が描く風景のかたち

当館2階コレクション展示室ロビーにある壁面で新たに作品を制作、同時に展覧会を開催する浦川大志さんに、インタビューを行いました。



《壁についての幾つかの平面》2025年 個人蔵
本文中で言及された、博多塀を参照した作品の一つ

ある／ない、風景、デジタル

編集部 今回の展覧会は、浦川さんの高校時代から最近の作品までを一望できるものになりますね。二貫して風景をモチーフにされてきましたが、それはなぜですか？

浦川 もともと「実存」への関心から始まり、自分の立ち位置とか、世界との関係みたいなものを考え続けてきました。そこから「風景」を描くことにつながってきました。

当時は通学路で撮った写真を水で濡らして輪郭をなぞったり、ぼやけた風景をもう一度描き直したりしていました。風景って、すぐそこにあるのに、意識しないと見過ごしてしまう。だからもう一度「固定し直して見ようとする」行為に興味があるんです。「ある」と「ない」のあいだ、あるいは見えていくけど捉えきれないもの。そういう曖昧なものに自分が惹かれるのだと思います。

編集部 作品がデジタルではなく、ほぼすべて手で描かれていることに驚きました。浦川さんの作品では、グラデーションの線が印象的ですが、どのように生まれた手法なのですか？

浦川 最初は、3Dモデルで作ったみたいなの、有機的で白い塊を描いていたのですが、やがてそれが線のなストロークに変化していきました。そして最近では、線がグラデーションのように変化していく表現を取り入れています。これは、デジタル画像の歪みとか、コンピューターのバグで生まれるグリッチのようなノイズ感を、手描きで再現してみたいと思ったのがきっかけです。グラデーションは一見きれいですが、境界が溶けて曖昧になる。そこに「ある／ない」の間の感覚があって、自分のテーマとすごく響くんです。

福岡、断片、再構築

編集部 今回の壁画作品および展覧会は《スプリット・アイランド》と題されています。2024年に福岡アジア美術館のアーティスト・イン・レジデンスで制作された、博多塀にインスピレーションを受けた作品に連なるものになりそうですね。

浦川 「博多塀」は、豊臣秀吉が博多

の町割りを進めた時に、戦火で焼け残った石や瓦を土に塗り込めて作られたもの。つまり、戦災の記憶が素材の中に物理的に練り込まれていると言えます。壊れたものや失われたものが、もう一度「形」として立ち上がっているのがすごく象徴的で、アジ美では、「風景を分割して再構成する」を試みました。

僕はもともと、風景をそのまま描くというよりも、いったん分解して、もう一度組み立て直すような感覚で描いてきました。目の前の景色をキャンバスに写すのではなく、自分の記憶や感覚を一度ばらして、断片にして、そこからもう一度「風景を再構成する」。

それはたぶん、現実の見え方は常に分割されていると思うからなんです。人って、一度に全体を見ているようで、実は部分しか見ていない。時間とか記憶の流れの中で、風景が少しずつズレていく。その「ズレ」や「間」の感覚をどうやって絵にできるかを、ずっと考えています。今回の壁画では、絵をプロックで構成して、それを3年の間にバラバラにして再構成できるようにしたいと構想しています。

編集部 作品を読み解くヒントをいただきたいような気がします。ありがとうございます。

壁画作品 《スプリット・アイランド》

当館2階コレクション展示室ロビーにある壁面で、公開制作を行い、その後3年間展示します。13mにおよぶパノラマ画面に、どのような風景が立ち現れるのか、ご期待ください。

公開制作期間：1月6日（火）～1月末（予定）
※開館時間中のみご覧いただけます



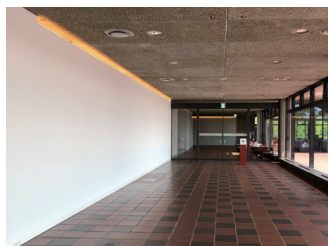
浦川大志

1994年生まれ、福岡在住。現代の風景画（遠近法）をテーマに、グラデーションの線やインターネット上に存在する画像などをモチーフに組み合わせた絵画作品を制作。

浦川大志個展 スプリット・アイランド

- ◇会期：1月6日（火）～3月22日（日）
- ◇会場：2階 近現代美術室B

展覧会
情報



1月	2月	3月
1 木	1 日	1 日
2 金	2 月	2 月
3 土	3 火	3 火
4 日	4 水	4 水
5 月	5 木	5 木
6 火	6 金	6 金
7 水	7 土	7 土
8 木	8 日	8 日
9 金	9 月	9 月
10 土	10 火	10 火
11 日	11 水	11 水
12 月	12 木	12 木
13 火	13 金	13 金
14 水	14 土	14 土
15 木	15 日	15 日
16 金	16 月	16 月
17 土	17 火	17 火
18 日	18 水	18 水
19 月	19 木	19 木
20 火	20 金	20 金
21 水	21 土	21 土
22 木	22 日	22 日
23 金	23 月	23 月
24 土	24 火	24 火
25 日	25 水	25 水
26 月	26 木	26 木
27 火	27 金	27 金
28 水	28 土	28 土
29 木	29 日	29 日
30 金	30 月	30 月
31 土	31 火	31 火

特別展(2階)

コレクション展 近現代美術(2階)

コレクション展 古美術(1階)

12月13日(土)ー3月8日(日)

・ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト

6月12日(木)ー

・コレクションハイライト (近現代美術室A)

12月23日(火)ー3月22日(日)

・美術館でお花見を! (近現代美術室A)

桜をはじめ、四季折々の草花をテーマにした華やかな作品を紹介します。ひと足先に、美術館での「お花見」をお楽しみください。

1月6日(火)ー3月22日(日)

・浦川大志個展 スプリット・アイランド (近現代美術室B)

6月12日(木)ー

・コレクションハイライト (近現代美術室C)

12月17日(水)ー3月15日(日)

・一杉コレクション展 一魅惑のインドネシア染織一 (古美術企画展示室)

10月28日(火)ー1月18日(日)

・異国へのまなざし (松永記念館室)

1月20日(火)ー3月22日(日)

・古代エジプトの染織 一コプト裂一 (松永記念館室)

松永コレクションに含まれる古代エジプトの織物・コプト裂を紹介します。「ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト」とあわせてご覧ください。

通期

・東光院のみほとけ (東光院仏教美術室)

LECTURE

つきなみ講座

JANUARY-MARCH 2026

毎月1回、当館学芸員が、自分の仕事、展示、研究、関心ごとについて語ります。

※聴講無料、申し込み不要 ※先着順(30分前開場) ※定員等に変更になることがあります。詳細は美術館ホームページをご確認ください。

2月

浦川大志個展
ギャラリートーク

開催中の「浦川大志個展 スプリット・アイランド」会場を巡りながら、作家の活動や展覧会の見どころについてご紹介します。

日時：2月21日(土)14:00～15:00
会場：2階コレクション展示室内 近現代美術室B
講師：忠あゆみ(近現代美術係)

※ご参加にはコレクション展の観覧券が必要です。



《LOG#02》2016年 作家蔵

1月

「インドネシアの染織
一杉コレクションの名品について」

スマトラ島からスラウェシ島まで、9つの島の染織品を紹介する一杉コレクション。特に充実しているジャワ島のバティックやスマトラ島の染織を中心に、隠れた名品、注目作品をご紹介します。

日時：1月17日(土)15:00～16:00
会場：レクチャールーム(定員54名)
講師：岩永悦子(館長)

《馬蹄文様更紗腰衣》ジャワ北岸地域

3月

どこでも美術館
一特別支援学校での活動事例一

美術館に来にくい、来られない方に向けて、美術館から出向いてプログラムを行う当館のアウトリーチ活動「どこでも美術館」。今回は市内の特別支援学校で行ったプログラムについてお話しします。

日時：3月21日(土)15:00～16:00
会場：レクチャールーム(定員54名)
講師：富坂綾子(教育普及専門員)

どこでも美術館の教材の1つ
染め・織りものBOX

ギャラリー A-F 2階

1月6日(火)～1月12日(月・祝)

・第72回福岡県小学校児童画展(ギャラリーA,B,C,D,E,F)

1月14日(水)～1月18日(日)

・令和7年度 博多区・文化芸術展(ギャラリーA,B,C,D)

・令和7年度中央区高齢者作品展(ギャラリーE)

・福岡市中学校書作品展(ギャラリーF)

1月20日(火)～1月25日(日)

・ファインアート展(ギャラリーA,E,F)

・第9回 福岡市立博多工業高等学校インテリア科卒業制作展(ギャラリーB,C,D)

1月27日(火)～2月1日(日)

・第109回 二科展 巡回福岡展(ギャラリーA,B,C,D,E,F)

2月3日(火)～2月8日(日)

・第75回 福岡市中学校美術展(ギャラリーA,B,C,D,E,F)

2月10日(火)～2月15日(日)

・第57回 九州産業大学造形短期大学部 卒業制作展(ギャラリーA,B,C,D,E,F)

2月17日(火)～2月23日(月・祝)

・第51回 西日本書美術展(ギャラリーA,B,C,D,E,F)

2月25日(水)～3月1日(日)

・第92回 独立展(ギャラリーA,B,C,D,E,F)

3月3日(火)～3月8日(日)

・2025 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA(ギャラリーA,B,C,D,E,F)

3月10日(火)～3月15日(日)

・第78回 二紀展 福岡巡回展(ギャラリーA,B,C,D,E,F)

3月17日(火)～3月22日(日)

・九州大学書道部 第64回卒業展覧会(ギャラリーA)

・恵 回顧展Ⅱ～水墨花～(ギャラリーB)

・猪又 徹 展(ギャラリーC,D)

・フォト百道浜 創立25周年記念写真展(ギャラリーE)

・碧園アート教室展(ギャラリーF)

3月24日(火)～3月29日(日)

・第57回(令和7年度)福岡市美術展(ギャラリーA,B,C,D,E,F)

3月31日(火)～4月5日(日)

・アクリル画とメタルアート(ギャラリーA)

・九大福大福工大合同写真展(ギャラリーB,C,D)

・子どもデジタル・デザインコンテスト入賞作品展(ギャラリーE)

・時の色(ギャラリーF)

Park-PFI 清流公園整備管理運営事業（イメージ）



Park-PFI 明治公園整備管理運営事業（イメージ）



AZUSA SEKKEI 梓設計

本社 〒144-0042 東京都大田区羽田旭町 10-11
九州支社 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通 5-23-8
<https://www.azusasekai.co.jp>

福岡市美術館ミュージアムイベント協力企業・団体



大王製紙株式会社



一歩先を行く発想で、地域に真のゆたかさを。



福岡銀行



人につくす。街につくす。

セイワ世研



AZUSA SEKKEI



九州電力

ずっと先まで、明るくしたい。



ふくおか応援寄付

福岡市美術館が魅力的であり続けるためには、今後とも機会あるごとに美術品を収集することが不可欠であり、そのための資金として皆さまから「ふくおか応援寄付」（ふるさと納税による寄付）を募集しています。

わたすclub

会員になると、展覧会や映画などの料金がオトクに!もっと身近にアートのワクワクを感じてみませんか。福岡市文化芸術振興財団のホームページ (<http://www.ffac.or.jp/wa/>) またはミュージアムショップ店頭で入会受付中。

MUSEUM SHOP

ミュージアムショップ



仙厓さんの子犬のTシャツができました!

オリジナルTシャツ
仙厓義梵《双狗図》
2匹の子犬がじゃれている、仙厓作品の中でも人気の絵柄です。

3,500円(税込)
S,M,L,XLの4サイズ



福岡市美術館

FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館
ウェブサイト

www.fukuoka-art-museum.jp



esplanade JANUARY 2026 | NO.222

福岡市美術館 季刊誌エスプラナード222号 発行日:2026年1月1日

【制作】福岡アートミュージアムパートナーズ株式会社(西日本新聞社)【編集】浅野佳子(nico edit)【デザイン】dictom design【印刷】株式会社西日本新聞プロダクツ【発行】福岡市美術館(〒810-0051 福岡市中央区大濠公園 1-6 TEL:092-714-6051 FAX:092-714-6071 <https://www.fukuoka-art-museum.jp>)

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6 TEL:092-714-6051(代表) FAX:092-714-6071
【開館時間】9:30~17:30(7月~10月の金・土曜日は9:30~20:00) ※入館は閉館の30分前まで。
【休館日】月曜日、年末年始(12月28日~1月4日) ※月曜日が祝日・振替休日の場合はその後の最初の平日